

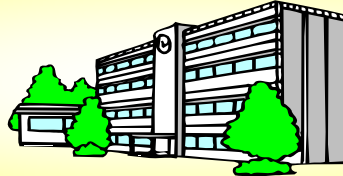
# 「学校施設の評価の在り方について」（中間報告）のポイント

—学校施設整備指針策定に関する調査研究協力者会議—

学校施設整備指針策定に関する調査研究協力者会議(主査:辻村哲夫 独立行政法人国立美術館理事長)では、学校施設の評価の在り方について調査研究を行い、平成20年3月、中間報告を取りまとめた。

## 学校施設を巡る様々な課題

耐震化・老朽化  
防災機能の充実  
安全対策



施設・設備の活用  
バリアフリー化 etc.

学習内容・学習形態の多様化への対応

すべての子どもたちが安心して学習でき、豊かな学校生活を送るためには、子どもたちにとって大切な教育環境である学校施設を評価し、適切に維持・改善していくことが重要。

### 施設評価の目的

- ・ 自律的・継続的な教育環境の維持・改善により、良好な教育環境を確保。
- ・ 施設の課題等を情報共有することにより、学校・家庭・地域の連携協力による改善を促進。
- ・ 学校施設の効率的・効果的な整備・活用等を促進。

### 施設評価の定義

- ・ 学校施設の評価は、学校と設置者が連携して、すでに様々な機会に実施されている施設に関する取組状況等を総合的に把握し、評価した上で、一体的な学校施設の維持・改善に活用することを目的として行うもの。

### 評価項目・指標の参考例

- 安全性
  - ・ 耐震化、老朽化対策等の状況
  - ・ 安全点検等の実施状況 など
- 快適性
  - ・ バリアフリー設備の整備状況
  - ・ 環境衛生に関する点検の実施状況 など
- 学習活動への適応性
  - ・ 学習環境の質的な整備状況
  - ・ 学習活動における施設の活用状況 など
- 環境への適応性
  - ・ 環境を考慮した整備の状況
  - ・ 環境教育における施設・設備の活用状況 など
- 経済性
  - ・ 中・長期の計画的・効率的な修繕・整備状況
  - ・ ランニングコストの適正化の状況 など

### 学校と設置者との連携協力



施設評価における学校と設置者の連携協力（イメージ）